

## 第3回若葉区地域福祉計画推進協議会 町内自治会分科会議事録

日時：平成23年11月26日（土）

午前10:00～11:00

場所：若葉保健福祉センター3階 健康増進室

出席者：委員6名、事務局6名、傍聴人0名

### 【1】議事概要

#### (1) 自治会訪問活動の報告について

大嶋副委員長より、加曽利新和自治会、いずみ台ローズタウン自治会、若松町北部自治会への訪問活動の報告を行った。また、柳原委員より、貝塚北部自治会への訪問活動の報告を行った。

#### (2) 第2回推進協開催後の状況変化に伴う、町内自治会分科会の今後の活動内容の変更について 前回会議後に発生した状況変化（詳細は第3回若葉区地域福祉計画推進協議会資料を参照のこと）に対応するため、事務局より今後の分科会活動を変更することについて提案を行った。

### 【2】発言要旨

#### (1) 自治会訪問活動の報告について

大嶋副委員長

本日は前回会議後に実施した、4自治会への訪問調査の報告を行いたい。前回会議の内容を振り返ると、町内自治会分科会では、地域振興課が行ったアンケートにて、地域支えあいに関して反応のあった自治会20団体程度を対象に、推進協委員4名と事務局で訪問団を2班編成し、訪問調査を行う予定だった。しかし、その後環境が変わった。

1つは、若葉区長が直接、自治会長に話を伺いたいという方針が出たため、地区連協単位で、区長から区基本計画及び地域支えあいについての説明を行うことになった。現在、既に4地区での説明会が終了し、残り4地区についても近日行う予定である。こうした動きと合わせて、前述の対象自治会のうち8団体について、地域振興課から訪問調査のアポイントを取ってもらった結果、3団体からは区長の説明会と同じ内容なのではないかということで、やんわりと断られた。したがって本日は、残りの団体のうち、訪問調査を行った4団体についての報告を行いたい。

※訪問調査についての報告。詳細はA3資料「自治会分科会訪問聞き取り内容」を参照のこと。以下、補足説明。

#### ①加曽利新和自治会

役員は1年交代だが、会長は現在4年目。会長の熱意によって会員が影響を受けて、自治会活動に積極的に参加している。また、新しい課題については、特別委員という主務者を決定して対応している。

#### ②いずみ台ローズタウン自治会

防災訓練には約200名が参加。また、町内作品展（文化祭）を隔年で開催。

お元気確認制度については、平成21年4月に町内で孤独死があったことが契機となっ

ている。希望者に、親戚がどこにいるか等の情報を書く紙を配布している。  
緊急搜索体制は、認知症による徘徊者を町内会員で探すシステム。現在のところ、出勤はない。

③若松町北部自治会

敬老会や防災訓練は行っているが、他に福祉的な活動はまだ行っていない。  
行政への要望が強く、自助・共助の考えがまだ浸透していない。

柳原委員

④貝塚北部自治会

役員体制は整っているが、1年交代。現在の会長は再任でやってくれている。  
福祉活動については、福祉厚生部とは別に、柳原・金子両委員で「福祉を考える会」を立ち上げ、精力的に活動している。  
県の地域支えあい体制作り補助金を申請し、自治会館をバリアフリー化して、ふれあいサロン事業を開始する予定である。

大嶋副委員長

県補助金事業ではどのような内容で申請されたのか。

柳原委員

いきいきサロンを開始するため、自治会館の玄関や舞台のバリアフリー化や、卓球台やカラオケ機材を購入した。

大嶋副委員長

以上、4団体を訪問した結果について報告させていただいた。以前に若松台三丁目自治会も訪問するという話があったがどうなったか。

飯田室長

会長に連絡したが断られた。

大嶋副委員長

私が訪問した3自治会のうち、2自治会はかなり進んでいる。同じ若葉区の中でも、役員のなり手がいない等の理由で地域福祉活動が進んでいないところが多い一方で、片やとても進んでいる自治会もある。

約200ある自治会に対して、町内自治会分科会でどのように地域福祉を広めていくか。今後の訪問活動をどのようにしていけばいいか、ご意見をお聞きしたい。

金子委員

福祉は実践であると改めて思った。厳しい言い方をすると、報告いただいた内容はわかっていただけである。しかし、複数の自治会を評価して報告していただいたことはありがたく思っている。

資料にもあるが、班分けをして、みなで役割分担をして活動するのは大変良いことである。今年度は推進協だよりもまだ発行されておらず、広報としては非常に拙い。

推進協委員は各団体の代表として参加している。各委員が200自治会の足元から攻めていければ良い。

山内委員

行政が声掛けをしても、自治会から断られるという現状をどうしていくかを考えていかなければならない。自治会が動かなければ地域福祉は進んでいかない。行政力を生かしながら、地域福祉が地域の安心・安全の1つの柱であるということを訴えていく必要がある。地域福祉の中心は自治会であると、あまねく200自治会に周知していかなければならない。

田沼委員

報告にあった活動は以前から聞いていた。若松町北部自治会が一般的な自治会で、行政にやってもらうという意識が強い。しかし、意識・関心はあるが実施できていない自治会も多いのが現状。関心はあっても、忙しくて行政の説明を聞いている暇がないという自治会も多いのではないかと。

自治会ごとの活動について、各自治会が互いを比較できていないのではないか。会長同士が、それぞれの自治会の活動について話し合う場が必要ではないかと思う。四街道市では、希望する自治会長が情報交換をする場を開催し始めた。当初は3～4団体の参加だったが、私が参加した時は30団体程の代表者が任意で集まっていた。

会長達は、参加した時に自分達にとって得になるような情報があれば、自然と参加してくるのではないかと。そうした情報交換の場を作っていればいいのではないかと思う。

大嶋副委員長

自分達にとってメリットがなければ参加しないのはもっともだ。そのメリットを作っていくのが推進協の仕事ではないか。

石川委員

私の所属している白井地区は区内3番目ぐらいの高齢化となっている。買い物をするのも不便で、その解消のためコミュニティバスができた。

現状では推進協というものが住民にあまり認識されていない。どのような活動を行っているのかわからないという人も多い。そうした人に推進協の活動を知ってもらうという意味でも、訪問調査を行うのは良いことなのではないか。

**(2) 第2回推進協開催後の状況変化に伴う、町内自治会分科会の今後の活動内容の変更について**

小谷補佐

前回の会議においては、自治会の訪問活動については、町内自治会分科会全員で40自治会程度を訪問する予定だった。しかし、大嶋副委員長の話の通り、その後状況が変わった。

したがって、町内自治会分科会委員を、自治会訪問調査・実行支援班、地域情報収集班、広報宣伝班の3班に編成して、今後活動していきたいと考えている。具体的な内容としては、第3回若葉区地域福祉計画推進協議会資料の裏面【変更を提案する活動内容について】の通り、今後活動していただければと思う。ご意見等があれば、この後の全体会にてご提案いただきたい。